かっぱの通信

発行 北川かっぱの会
https://kitagawa-kappa.org/
http://kitagawakappanokai.cocolog-nifty.com/blog/

2025年11月6日
vol. 158
今年は金木犀が
よく香ったね 号

報告 今年もトンボとわんぱくまつり2025

昨年に続き、熱暑を避けて９月14日（日）に開催しました。気温は30度弱。多くの子どもたちの参加のもと、無事に実施することができました。

まつりのプログラムは、ほとんどが北山公園と周辺の貴重な自然を体験・体感する企画です。名物のカヌー体験は約60人のお子さんが乗船、「大人も乗りたい」の声も頂きました。魚とりは未就学児のご家庭を中心に60人以上が参加、公園内の農家さんのご理解により安全な水路の中で、北川かっぱの会の大人たちにガサガサ（タモ網で水中の生きものを捕獲する方法）を教わり、エビやヤゴ、メダカ、タモロコ、ザリガニなどを真剣な表情で楽しそうに捕獲していました。

「カメさん一座」の楽しい口上からは、生態系を外来生物から守る活動を笑顔とともに知っていただくことができました。(次ページへ)

その他ザリガニ釣り、北川水族館、北山昆虫館、紙芝居、パネル展示（周辺の生きもの紹介や保全・北川清掃活動など）、秋水園とんぼ工房の方々による木の端材での工作。東村山市みどりと公園課による「いきものさがし」は、園内を歩いて動植物や昆虫の写真を撮り、バイオームというアプリに上げることで東村山の生態調査のデータとなる価値ある取組です。

また新たな参加として、アメニス東村山市立公園グループによる缶バッジづくり、市内のイラストレーター、イケガメシノさんによるぬり絵がありました。未就学や、虫が苦手と言うお子さんもゆったりと楽しんでいて、北山の生きものを題材にしたオリジナルのぬり絵は自然を伝える新たなツールとなり、それを缶バッジにして持ち帰ることもできて好評でした。

東村山で市民協働の歴史を拓いたとも言われる北山公園で、今年も市民と市の職員、そして市内169カ所の公園の指定管理者であるアメニス東村山市立公園グループの皆さんが一緒になって汗を流し、このまつりを開催することができました。

人々が北山公園、八国山の貴重な自然を味わい、楽しみ方を知り、普段からその豊かさを享受しながら、次の世代に大切に守りつないでいく。そのきっかけとなることを目指して来年も、互いの想いとチカラを重ね合わせて、このまつりを作り上げたいと思います。

HP、ブログ、インスタ、フェイスブック、ラインで発信中！

報告 北山小4年生の総合的学習【外来種】を支援

9月16日（火）と10月14日（火）、北山小4年生の総合的学習「外来種」の授業を支援しました。今年度、当会の受け持つ授業は、６月の北川のゴミ、７月の北川の魚に続き3回目となります。今回の授業はクラスごとに実施しました。

9月の学習では北山公園で、まず外来植物（セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ）の駆除を体験し、公園内の外来植物ボックスに運びました。そして、菖蒲田でアライグマやタヌキ、サギ類などの足跡を確認しましたが、足跡の数は少なめだったものの、動物たちの移動の様子を観察することができました。最後にかっぱの会が菖蒲田に仕掛けてある網から引き揚げたアメリカザリガニを観察しました。各クラスとも半数近くの児童がアメリカザリガニをつかんだ経験がありませんでしたが、これらの児童もつかむことができるようになりました。

10月の学習では、講義形式で「外来種って何？」、「外来種って何が問題なの？」、北川や北山公園で見られる外来種の紹介、「外来種は悪者なのか」、「どうやって解決したらいいの？」について対話形式で学習しました。北川の魚類の変遷や北山公園で見られる外来種、外来種の駆除についての説明を、興味深く聞いていた児童の姿も印象的でした。

また、特大サイズのウシガエルの標本（しょうちゃん池で採れたもの）やアカミミガメのぬいぐるみ、オオフサモの現物も見てもらいましたが、興味深く見てもらえました。

全体的には質問もたくさん寄せられ、外来種への関心の高さがうかがえたと感じています。北山公園や北川などの生物多様性の保全に向け、児童たちの体験学習が大きな力になってほしいと感じました。次回の当会の受け持つ授業は、１月の北川の水質を予定しています。

かっぱの楽校 生き物講座　第128回

真夏の雑木林に異変あり

今年の夏はとりわけ暑かったですね。暑いなかでも、僕は6月の半ばから蚊に刺されながら、市内の雑木林を巡回生き物ウォッチングに励んでいました。

そんな中で、ここ数年ぼんやりと気が付いていた事に確信を持ちました。それは、市内及び近郊のクワガタが、ほとんど全てと言っていい位にノコギリクワガタばかりになってしまった事です。2020年まではヒラタクワガタは元々希少でしたが、コクワガタとノコギリクワガタがほぼ同数位で、苦も無く観察出来ていました。今年はなんと、コクワガタはおそらく越冬個体だろうと思われる、脚が欠損した個体が1頭だけしか確認できませんでした。ヒラタクワガタに関しては、ここ3年程全く見かけていません。しかし、20年くらい前までは、東村山では希少だった大型のノコギリクワガタが、とても容易に観察出来るようになりました。

この変化の理由を考えてみました。あくまでも僕の感覚的な推論ですが、一つは、もともと他のクワガタに比べて、ノコギリクワガタは暑さに強い種であるだろうという事。もう一つは、コクワガタに比べて大型なので、餌場の確保競争で優位に立てる。この2点が考えられます。更にもう一つ考えられるのは市内の農家のシラカシの屋敷林とクヌギ、コナラの雑木林の絶対面積が減り、ノコギリクワガタとコクワガタの棲み分けが難しくなった事も考えられます。

ノコギリクワガタ

もう一つ、雑木林で気が付いた事として、カナブンをほとんど見かけなくなりました。樹液に集まっているのは、ほぼ皆シロテンハナムグリです。考えられる理由は、カナブンの幼虫が育つためのクズの群落を、市内でほとんど見かけなくなった事が考えられます。

環境に人為的変化によって生き物の多様性が失われるということは、きっと同じ生き物である人間にとっても住みにくくなっている事には変わりありません。

今年の夏はどこも冷房をフル稼働じゃないと居られない。おかげで室外機の排熱をばらまいてしまいました。つくづく悪循環だな～と不安を感じてしまったこの夏でした。(中谷)

報告　令和７年度第２回

北山公園整備計画意見交換会【川端会議】

９月１３日、標記の会議が開催されました。この会議は市民誰でも自由に参加でき、北山公園の整備計画について意見を述べることができるものです。

今回の主な議題は次のとおりでした。

１）Ｒ７年度事業報告：北山公園施設整備（木道補修他）、水田運営、外来種防除、改修工事進捗報告、

２）北山公園施設改修実施設計

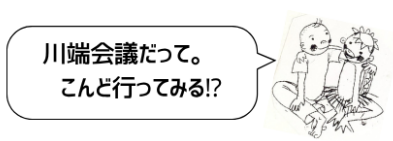
意見交換の中心となったのは実施設計の整備案についてで、①水田・菖蒲田の高低差処理（木道基礎の盛土）、②ギンブナ・ナマズなどが遡上できる環境の確保、菖蒲田内池・ハス池、③木道・橋・園路、④沈砂池・外周柵、の具体的な設計案です。

これらの設計案には、これまでの意見交換会の内容が一定程度反映はされていましたが、さらに生物の保全や公園利用者への十分な配慮が行われるよう参加市民から様々な意見が出され、市みどりと公園課・設計コンサルとの間で実のある意見交換が行われました。

より良い北山公園にしていくためには、より多くの意見を市に届ける必要がありますが、参加者は減少傾向にあります。

次回の意見交換会は来年２月１４日１０時から市民センターで開催予定ですので、聞いているだけでも構わないので、ぜひ皆さまご参加ください。

なお、北山公園しょうちゃん池では、８月に水を抜いて問題化していたハスを除去する作業が行われましたが、その際多くの魚類等を斃死させてしまったという問題行為がありました。このことについて市みどりと公園課から説明がありましたが、それに対して私から問題点を指摘し、改善策について意見を述べました。（ビー永島）



報告 北山小土曜講座　ヤゴいかだ作り

10月11日、かっぱの会が支援してトンボ捕りとヤゴいかだ作りの講座を行いました。ただし、当日はスタート時に小雨が降り出し急遽中止にしました。でも、学校に5人の子どもと保護者の方たちが来てくれたので、ヤゴいかだ作りを手伝ってもらいました。

学校のプールは多くのトンボが産卵場所として利用しますが、トンボの種類により水面中に卵を産み落とすものと、水辺の植物(主に茎)に産卵するものがあり、「ヤゴいかだ」は後者のために設置するものです。春に行うヤゴ救出作戦で「いかだ」があると、水面に産卵するアカトンボだけでなく、茎に産卵するギンヤンマが見られることになります。

今年プールの状態は異変がありました。例年通り7月中旬で水泳の授業は終わり、以降は水の補充がない訳ですが、今年は猛暑と小雨で水は蒸発し水位が30~40cmも少なくなっていました。

さて、子どもたちにはいかだにのせる雑草を引き抜いて持ってきてもらい、大人はヤゴいかだの補修を行いました。結束バンドを交換し骨組みをしっかり組み立て直す作業でした。

その作業中、子どもたちはプールサイドで遊び回っているのですが、水位が浅くなった水の中に、ヤゴやウシガエルなどの生き物を発見し、これをうまく網で捕まえてくれました。このヤゴは2cm位育ち間もなく成虫になりそうな大きさでした。虫博士のNさんの話では、時期を決めず年数回産卵するのはシオカラトンボやギンヤンマとのこと、このヤゴは大きさからシオカラであろうとなりました。

プールにいかだを浮かばせて来年のヤゴ救出作戦を待ちます。今年は異常気象で、ふだん見られないトンボの生態が勉強になりました。

子ども5、保護者4、スタッフ2人の参加でした。(遊星歯車)

お知らせ

北山田んぼで米づくり

本号がお手元に届く頃には、脱穀が終わっている頃と思われますが、北山田んぼでの６年目の活動が無事、終了ました。

今年もうるち米を作りましたが、昨年同様のキヌヒカリに加えて、北川沿いの一面で初めてコシヒカリを栽培しましたが、両品種とも豊作でした。

北山田んぼは北山小と回田小の学校田だったところを、市が2020年に市民のボランティアによる稲作の場に転換し、八国山と一体化した里山の景観を守ると共に、希少種の保全など、地域の生物多様性を守る場として機能するようにしてきました。

肥料は秋に種まきしたレンゲのみとなっており、完全無農薬であることも併せれば、多くの希少種である動植物が見られることにもうなずくことができます。

ボランティア作業は4月～11月上旬にかけて行われますが、参加者はいい汗をかいて楽しく活動しています。今後は、稲わらを使ったしめ縄や門松の製作など、文化の継承への活用が課題と思われます。

田んぼでの作業は当会の活動とは異なりますが、地域の環境を守っていくためにも、田んぼのボランティア体験をされてみてはいかがでしょうか。

北川かっぱの会

2025年11月～2026年1月　活動スケジュール

性別、年齢、経験不問。
ご興味のある方は、HP、ブログ、インスタ等で検索！
または 直接会員にお知らせください。

● 定例川そうじ　→ボランティア募集中！
毎月第2土曜日　9-11時　11/8 、12/13
集合：北山小正門前（雨天中止）

● 北山小土曜講座（野鳥観察）＋　一般向け野鳥観察会
1/17（土）　10-12時
集合 ： 北山公園あずまや前（荒天中止）

ご寄付に深謝

7月の北山いきものクラブ、9月の北山わんぱくまつりで、多くの方々から合計5420円の寄付をいただきました。
ありがとうございました。

会費納入のお願い

今回、今年の会費について未納の方には振込用紙を同封させていただきましたので、最低限の活動を行なっていくためにも、会費（一般会員；年間3000円）のお振込をお願いいたします。
（既に振込済の方にも振込用紙を送付している可能性があります。悪しからずご了解ください）
「支援会員（主にカンパで支援していただける方が対象で、２年間で2000円（学生は1000円）」の区分もあります。
振込用紙の該当欄に記入をお願するとともに、これまで一般会員だった方々には、引き続き一般会員の区分で継続していただけますと幸いです。
りそな銀行あて送金される場合には、shot-1205@kjc.biglobe.ne.jp
吉田あてにご一報いただけますと幸いです。

編集後記　クワガタ、クマ、人…、みんな違って みんないい。
なんとか上手く共存していけないものかと思う今日この頃です。
まずは人が変わらなければ…ですね。

発行；北川かっぱの会　　**連絡アドレス；CZT12221@nifty.ne.jp**